

[仏教の美術展によせて]

春日宮曼荼羅と本地仏の信仰

当館には春日信仰の垂迹画が2点あります。一つは春日宮曼荼羅で、他の一つは春日若宮の本地仏を描いた文殊菩薩像です。後者は『大和文華』(92号 平成6年9月)誌上で東北大学有賀祥隆教授によって提示された新見解で、研究者間で改めて注目されています。この二つの垂迹画を中心に有賀氏の論文に導かれながら、春日の本地仏信仰について絵画のみならず彫刻史にも視野を広げて、ここで少し考えてみたいと思います。

平安時代、時の権力者であった藤原氏は氏神を奉る春日社に篤い信仰を寄せ、興福寺及び春日社の参詣が盛んでした。平安末期になると、春日神社の本殿とその周囲の景観を描いた春日宮曼荼羅が貴族の邸内で奉懸され、その場に春日神を勧請して法楽を催し、これによって春日社参の替りとなされました。中世末以降、この種の儀礼が郷村にまで広がり、いわゆる春日講(しゅんにちこう)が組織されます。当館の春日宮曼荼羅はこのような講の会場(えじょう)の本尊にふさわしい大きさの画像です。画面上方に春日山や御蓋山を配し、中央に社殿が春日野の四季の景観の中でパノラマ風に、また一種ミニチュールを見るように

細密に描かれています。下方は春日東・西塔、その奥に四恩院の十三重塔が描かれます。十三重塔が文明12年(1480)に焼失したので、景観年代はそれ以前ということになります。画風は平明であり、制作は南北朝時代と推定されます。

ここで注目したいのが、画面上方に描かれた10数体の本地仏です。本地仏とは、本地垂迹思想に基づき、仏教世界の仏菩薩が衆生を救済するため神々の姿を借りてこの世に現れ、人々を救うという教説です。春日社の場合、祭神と本地仏との関係は大略次の通りです。

一宮	武甕槌命	不空罽索観音
二宮	経津主命	薬師如来
三宮	天兒屋根命	地藏菩薩
四宮	比売神	十一面観音
若宮		文殊菩薩

本図では社殿の上空に乗雲する姿で表されており、これらが諸説ある春日本地仏の変遷を説明するともいわれます。

次に騎獅文殊菩薩像について見てみます。文殊菩薩は、正面を向いて咆哮する獅子の背上の蓮華座に坐し、向かって右方を向いています。一般に文殊菩薩は諸仏の智慧を象徴し、左手に梵篋(ぼんきょう)をのせた蓮華、右手に利剣をとる姿なのですが、本像では左

手に経巻をとり、右手は掌を伏して青蓮華の長い茎をつまんでいます。よく見ると、蓮華上には小さな三鈷柄(さんこづか)の剣が載っており、経軌にとられない図様であることに気づきます。画風は中国の宋元及び高麗仏画の影響が考えられ、筆致も確かで、鎌倉時代、13世紀後半の制作と推定されます。

ところで有賀教授は、肉身が金色でなく白肉身であるのは経軌に説く鬱金の体色を表すこと、同系の像がベルリン東洋美術館にあること、その他多くの例証を上げてこの種の文殊菩薩画像是若宮本地仏を意図して描かれたと結論付けられました。さらに裏書を引き、本画像がかつて興福寺の窟転経院に住む胤継春覚房が所持していたこと、胤継は若宮の御託宣を書き留めた人物であること、そして春日若宮と関わりのある興福寺窟転経院に本画像が代々伝来した可能性など、その内容を考証されて新見解を補強されました。

この有賀教授の鮮やかな解明は、廃仏毀釈以来すっかり忘れられていた本地仏信仰をいま蘇らせる意義があります。というのも近年では彫刻史の方からも同様に春日若宮の本地仏として東京国立博物館所蔵の文殊菩薩像が再評価され、奈良国立博物館の十一面観音像やアジアンサエティの地藏菩薩像など、いずれも鎌倉時代の仏師善門作(または推定される)の仏像が実は春日本地仏として五仏一具であった可能性が高いことが提唱さ

れています。詳細は省きますが、筆者も同じ立場から薬師寺地藏菩薩像(延応2年/1240 善門作)が実は春日三宮の本地仏であり、腰をかがめて上体を前傾し、右足を踏み出して乗雲する姿は、地藏菩薩に引導されて「春日浄土」に往生する信仰の反映ではないかと考えています。春日講の法楽で唱えられる講式には「六道能化地藏菩薩也、付属ヲ口利ノ雲ニウケテ定業ヲ那洛ノ煙スクフ」(『春日御本地尺』)とあります。このような本地仏の視点に立つと、当館の双柏文庫の中に同類のものがあることに気づきます。一は奈良大蔵寺の地藏菩薩像の体内に納入された地藏菩薩印仏(延応元年/1239)、二は五髻文殊菩薩印仏(南北朝時代)です。前者は三宮の本地、後者は毎月25日に摺られた「若宮御本地文殊三十体摺之」(『大乗院寺社雜事記』)に類するものではないかと推察します。

ところで春日の本地仏信仰を通して奈良の古寺の仏像を改めて見直してみると、春日山を中心とする神仏習合の世界がより大きな広がりをもって再認識されるように思います。そのような本地仏の具体例については今度の日曜講座でお話できればと考えています。

(鈴木喜博)

春日宮曼荼羅の本地仏



文殊菩薩像



大蔵寺地藏菩薩印仏



地藏菩薩像(善門作) 薬師寺



季刊 美のたより No.128

平成11年 8月19日

発行 大和文華館